

道

*michi*

## 主観と客観

人間は、処世上とかく主観に捉われがちで、特に女性に多いのは事実である。この主観に捉わるることは、最も危険である。というのは自己の抱いている考え方が本当と思つて自説を固執するとともにその尺度で他人を計ろうとする。それがため物事がスムーズにいかない。人を苦しめるばかりでなく自分も苦しむ。

右の理によつて、人間は絶えず自分から放れて自分をみる。すなわち、第二の自分を作つて、第一の自分を常に批判する。そうすればまずまず間違いは起こらないのである。これについて面白い話がある。それは、昔万朝報という新聞の社長であり、また翻訳小説でも有名であつた黒岩涙香という人があつた。この人は一面また哲学者でもあつたので私はよく氏の哲学談を聞いたものである。氏の言葉にこういうことがあつた。それは人間は誰しも生まれるながらの自分は碌な者はない。どうしても人間向上しようと思えば新しく第二の自分を造るのである。いわゆる第二の誕生である。私はこの説に感銘してそれに努力し少なからず裨益したことはいまでも覚えてゐる。



重美 聖徳太子立像  
 康俊作  
 鎌倉時代 元応2(1320)年  
 木造彩色  
 MOA美術館所蔵

朱の袴をつけて合掌するこの童子形像は、聖徳太子伝に基づいて制作された太子二歳のときの姿とされ、その形によって南無仏太子像とも呼ばれています。この像は、小児の愛らしい姿や柔らかな肌の感触と、鎌倉彫刻に共通する凜とした厳しさの見られる相好とが合致して、聖徳太子の英邁な智慧の輝きをよく示した作例といえることができます。胎内には「元応二年仏師康俊作」という造立銘があり、制作年と作者の判明する古作の一つです。仏師康俊は、南都興福寺大仏師を称した人で、鎌倉時代初期の巨匠運慶の系譜を引き、子の康成とともに、全国にその事蹟を遺しています。

《目次》

み教え	2
代表挨拶	4
速報	10
感謝奉告 東大阪グループ	11
感謝奉告 山口グループ	13
【聖地・聖蹟シリーズ】みあとしのびで	14
立春祭(箱根)	18
立春祭(熱海)	19
紫微宮祭(箱根)／教祖祭(熱海)	20
感謝奉告 山口グループ	21
感謝奉告 鳴門グループ	22
感謝奉告 淡路グループ	24
シリーズ明主様(36)	25
聖地NOW	28
連載『神と繋がる明主様の食事観』(2)	32
お知らせ	34

## 《令和8年 信仰課題》

魂磨き<sup>たまみが</sup> 心清めて世を救ふ

尊き神業<sup>みわざ</sup>に励しめよ皆<sup>みな</sup>

### 【実践の誓い】

- 1 み教え拝読をさせていただきます。
- 2 参拝、浄霊、奉仕をさせていただきます。
- 3 明主様の救いを拡げていきます。

### 代表挨拶

西村 正資

聖地瑞雲郷では、明主様がこよなく愛された紅白の梅花、そして熱海桜が綺麗に咲き誇り、温かな春はもう直ぐですよ”と伝えていきます。

皆さま、元気でお過ごしでしょうか。

今年に入り、寒風の中を”明主様にお使いいただきました”と、ご用奉仕に取り組まれているご報告を多くいた

だいています。誠にありがとうございます。

聖地におきましては、二月四日『立春祭』が、厳粛に執り行われました。

立春は”大自然の活動を主宰し給う五六七大神様の神威がいや増すとともに、その年におけるすべての活動が勢いづく起点になる”と、説かれています。

熱海救世会館では、海外信徒五八名をはじめ、全国から訪れた参拝者とともに、新たな春を迎える喜びに感謝を申し上げ、さまざまな願いが無事に芽を出し、やがて葉をひろげ、花を咲かせて立派に結実するよう、祈らせていただきました。

二月一〇日には、『紫微宮祭』(箱根光明神殿)、『教祖祭』(熱海救世神殿)が、厳粛に執り行われました。

昭和三〇年二月一〇日、明主様は七〇余年の超人的なご生涯を終え、天界におけるご経綸にお発ちになりました。

世界の物質文化は驚くような速さで進歩発展しています。同時に、文化が進歩すればするほど、国家や民族、個人に至るまで、なぜか利己的排他的価値観が蔓延し、人々はさまざまな形で分断され”力こそ正義なり”とばかりに戦争や紛争、争い事などが多発し、私たちの心に深い悲しみや不安の影を落としてくるのです。

明主様は”社会に大切なことが欠けているからだ”と説かれました。それは、世界の創造主であり絶対善の主である神の存在に、真に目覚めていないからではないでしょ

うか。そして「現実の世界」とともに、見えぬ「霊界」が存在し、そこでは今という瞬間も、動画で撮影されるがごとく“一人ひとりの「心・言・行」一切が、瞬時に「善」と「悪」に分類され、常時記録し続けられている”ことを覚らなければなりません。つまり、神の律法を魂の底から理解する必要はある”ということですよ。

私たちは今、永遠の「魂」を与えられ「輪廻転生」という「命」の旅を続けています。自分の魂から発せられた「想念・言葉・行い」の善も悪も、いつの日か必ず自らの運命に返されるということも輪廻の摂理ではないでしょうか。結局、自分を包み込む幸福も不幸も、自らの所業の結果が顕れてくるということを、腹の底から理解し、自己の成長をはかることが幸福の秘訣だ”と、行動することが大切なのです。もちろん人生においては、社会や他人から強く影響を受けます。そのことを成長の糧として「善行」に結べる人もいれば、怨み、仕返し、責任の転嫁などという「悪行」に流れる人もいます。どのように理解し表現するかは、結局自分の考え、想念次第となりますね。

み教えの「人間は絶えず自分から放はなれて自分をみる。すなわち、第二の自分を作って、第一の自分を常に批判する。そうすればまずまず間違いは起こらないのである」（今号掲載）を実践させていただきましょう。

神様が怖いから改心するというのは、本物ではありませんが、想念を正す営みを繰り返すことで、いつしか本

物の自分をつくり上げていく営みが、大切なのではないのでしょうか。

真に神の存在を知る者は、何があってもまず自分の内面をしっかりと見つめ

“心の底に善や愛を育み”

“みんなが嬉しくなることを考え、言葉や行為に表す”

“みんなが嫌がる心を消し去り、言わず、行わず”

です。そのように日々を過ごせば、心穏やかな天国がきつと生まれるはずですよ。「想念」こそが、すべての源であることに気付くことが大切ではないかと思えます。

真理とは、単純明解なもののように思えます。

今、神と霊界の存在、真理を説かれた明主様のみ教え、そのことを広く世にお伝えし、浄霊を通して魂を浄化するという、本教が果たす救いの業が、真に求められる時が到来しているように思います。

立春祭、教祖祭では、再度自分が享けた、明主様からの大きな恩恵”を顧みて、その徳と愛情をお偲びし、教祖の神意を体して、信仰即生活の実践に、一層の努力をさせていただくことをお誓い申し上げます。

そして、当会すべての皆さまに、神界より一層のお導きを賜りますように、明主様にお祈りさせていただきました。

『道』 一月号 感謝奉告に学ぶ

浜松布教所のMCさんは、昨年末の感謝祭で「一年の感謝奉告」をされました。

手首骨折により通院した病院にご縁をいただき、外来受付事務に就かれました。まさに骨折の浄化が合縁奇縁となり、新たな人生が拓けたのですね。

痛みがある時は、なかなか前向きに受けとめることはできないでしょうが、すべては良くなるために起きていることがよく理解できます。特に浄化の時こそ、そのように想念を整えることができれば、乗り越えたあとにきつと善き事が訪れます。その見本のような奉告です。

次に、Mさんは皮膚科を担当する中で、ドクターから「どうしたの？手を見せて」と、診断を受けることになったそうです。彼女は若い頃からのアトピーで、爪にも症状が表れていたのです。「爪はカンジダ菌が原因で、薬で三ヶ月できれいになる」と、処方を受けました。夫君と話し合わせ、一層の浄霊に取り組むことにも努められました。二ヶ月目に薬の副作用が表れ、医師の判断で服用を中止。それでもすっきりきれいになったそうです。

一方、勤務先で一時人間関係で苦しみ、周囲も心配してくれました。私ができるようなればいいんだ。もう少し頑張ってみよう」と、夫君に愚痴を言いながら続けられました。

愚痴を優しく聞いてくれる夫君の存在が、明主様のようにですね。そして、相手に改善を求めるのではなく、自分の想

念の成長で解決しようと努めていたところ、ドクターが「〇〇さんを外してくれ。限界！」と、まさにドクターストップが入り、相手と離れることができたということです。

断崖の 行手にあるが知られけり

神の光に照らされてより

世の中に、神様のご意思を離れて起きているものは一切ありません。だから信仰者は、雄々しく、正道を歩む勇気が湧き、将来に対しても、真の安心立命の境地が許されるのではないのでしょうか。

そして今、Mさんは、乳癌で苦しむ親友を励まそうと浄霊を取り次がれています。神様からすれば、Mさんこそ、愛すべき存在なのだと思います。

是非、この続きの感謝奉告をお願いしたいですね。

鈴鹿グループのSMさんです。

鈴鹿グループでは、ご神体ご奉斎家庭を中心に集会や浄霊会が開催されています。昨年十一月、浄霊会を自宅で開催されました。そこで「家庭信仰の充実」について熱心に話し合われました。

S家では、長男長女が入信されていますが、ご長男は、日々浄霊をいただいで出勤されますが、「おひかり」を首にかけない」と、悩んでいらつしやいました。

もしかしたらご長男にとっては「親孝行」という意識での信仰なのかもしれません。それでも結構なことで両親の生き様に対する尊敬の表れではないでしょうか。

私たちにとつて、家庭や生活の場ほど、安らぎの場はありません。<sup>かみしも</sup>袴を解けば、素の自分になれます。しかし、家族や同居者からすれば、その姿こそが本質なのだと思われずかされます。家族というのは、厳しい評論家です。

愛を説き 慈悲論すとして行ひの

伴なはざれば浜の松風

S家では、ご両親の日々の姿に、お子様からの敬愛の念があるように感じられます。こうした親子の敬愛こそが家庭天国をつくるには何よりも大切で、いつか必ずやご両親の生き様や信仰が、ご長男ご自身の人生の指標となる日が訪れるものと信じます。

また、集会の後に、霊的気配を感じ、自身の魂の上昇を感じ取っていらつしやいます。霊的な励ましでしょうか。翌月の集会には、ご長女の参加が許されました。一歩一歩確かな前進が感じられます。「諦め」なくて良かったですね。想念が働くのです。

ご夫妻揃つての毎月の聖地参拝にも、ご長男が毎回同行されていますね。文面に表れていない努力もされているように感じます。必ずや更なる前進が起るものと信

じます。S家のご発展をお祈りいたします。

鳴門グループのOKさんです。

ご自身のテーマを定めていらつしやいます。それは「世界人として!」です。さまざまな生活スタイルや目標など、人それぞれ、自分に合った目指すべきものを意識されるのは、とても素敵なことだと思います。

神様、明主様の存在を意識し、たとえ浄化をいただいても「明主様のみ心の現れ」「明主様の世界愛の始まり」と、受けとめていらつしやるようです。

昨年末、大先輩のOさんから連絡があり、「自宅で倒れ、精密検査をしたら肺癌があり、脳まで転移し、ステージ四」とのことと、余命宣告を受け「新薬を投与する」ということでした。

「私にとってはなくてはならない方、地上天国建設に絶対必要な方」と、OKさんは思ったそうです。ここでも「世界人」という愛のテーマが強く活かしているように感じます。そして、なりふりかまわず財布に入っていたすべてのお金を神様に捧げて、浄化平癒の祈願をされています。なかなか出来ることではありません。「世界人」という活字をお飾りではなく、行動にまでしっかり繋いでいらつしやいます。

しばらくして、Oさんから連絡があり「癌が完全に消滅しました」と、感動の報告があり「OKさん、あなたの祈りのお蔭です。私の命の恩人です」と、感謝され、

頭が真っ白になるほど嬉しかったそうです。人の心というのは、愛が強くなればなるほど自分と他人との隔たりがなくなりますね。ステージ四の癌が消えた——凄い奇蹟にかかわることができましたね。OKさんの深い愛と祈りの行為が、その奇蹟の要因になったものと信じます。

「ひと様のお役に立てた」という体験は、やみつきになるような感動や充実感を覚えるものです。

OKさんからは、何ごとに対しても全身全霊で向き合うという「誠」を感じます。人類救済の霊的な雛型として信徒をお使いになりたい明主様は、逆境にもめげずに努力し、周囲の灯火となるような行動を起こす誠の人、その「核」となる人材をお求めになられています。

大いなる 仕組といへどいと小さき

型より始まるものにぞありける

OKさんは、想念を整える気付きを求めて、よく先生と会話をされています。とても良いことだと思います。

「魂の世界で生きる」とも表現されていますが、ご自分の目指す「世界観」をさらに学び深めていってください。そして、感動をいっぱい溜めてください。

今後の気付きとご活躍を楽しみにしております。

東大阪グループのMSさんは、昨年の秋季大祭に、お

母さんとともにご参拝を許された喜びを奉告されました。

お父さんと二人住まいのお母さんは、一〇年ほど前に睡眠障害から不安定な体調となったそうです。

昨年六月、お世話の先生に相談し、祈願をお願いしたところ、直ぐ聖地での祈願に繋いでくださいました。

聖地では、皆さまからご祈願依頼が入りますと、事務局員のラインに繋がれ、みんなでご祈願に取り組みます。皆さまもご遠慮なく所属、お名前と年齢、祈願内容などをお知らせください。

MSさんは、先生の優しさがありがたくて不安な気持ちに「扉が開いた」ような心になったそうです。

お母さんは、もともとM教に所属され、ご浄霊や聖地参拝が変わることに迷いながらも、そのまま信仰されていました。心配するMSさんに先生は「毎日の電話が「ご浄霊させていたでいる」と思ってみれば」と、想念のもち方の大切さをお話くださり、悩み暗くなる心に「温かい感覚」をいただいたと感謝されています。

「想念」の働きの大切さを教えていただきましたね。

その後仕事の予定が偶然空いたことで、聖地地上天国祭に夫君と一緒に参拝が許され、お母さんが「聖地直結の会にご縁が許されるよう」ご祈願をされました。

直後、祖霊祭祀のことが気になり、緊張しながらもお母さんに電話を入れたところ、素直に祖霊祭祀も直結の会への入会も承諾されました。そして、念願の家族揃っ

ての秋季大祭参拝が許されました。

拙なくも 誠に出づる言の葉は

人を動かす力ありけり

同じ言葉が人を感動させたり、怒らせたりすることは、お互いに経験するところだと思えます。何が違うのでしょうか。言葉は、特に人の心の「本音」を運ぶ「乗り物」と、考えても良いかと思えます。先方には、霊的なもの、心の内が特に強く伝わり魂に響くのです。

相手の幸せを聖地にて神様に祈り、ウソのない誠を乗せ、愛の言葉を発することが大切ですね。日々、ひと様を幸せにする言霊を、意識して発したいものです。

MSさん、今後大きい「温かな想念」を極められ、天国づくりにご活躍ください。

立春を過ぎ、明主様のご神業もいよいよ令和八年における新たな進捗を図られていくものと思えます。

私もみ教えの拝読を疎かにせず「これは知っている。これはできている」と油断せず、明主様の「熱き想い」を、日々の姿や行動に表わさせていただくことに努めたと思います。

世界の平安と皆さまのご活躍を、聖地にてお祈りさせていただきます。

MOA美術館・ハーバード大学主催

## 「世界文化フォーラム」配信開始

現代、さまざまな課題を抱える「競争の時代」に生きています。これからの社会は「協調の時代」へと転換することが必要です。こうした時代背景のもと、MOA美術館財団では、日本文化が育んできた人間観や自然観に着目し、日本文化のもつ可能性を世界に向けて発信する場として、「世界文化フォーラム」を開催しています。

本フォーラムでは、日本の伝統芸能や工芸、美術、音楽など、各分野の第一線で活躍する国内外のゲストを迎え、講演や対談を通して、日本文化の特質を多角的な視点から紹介します。

詳細は、左記配信情報をご参照ください。



World Japanese Culture Forum  
The History of Art and Architecture Department at Harvard University  
MOA Museum of Art

世界文化フォーラム  
WEB配信開始

配信開始日 2026年2月4日(水)

配信言語  
日本語、英語、中国語(簡体字)、  
スペイン語、フランス語、タイ語

配信方法:  
「世界文化フォーラム」公式ホームページより  
このほか、世界8か国20拠点から配信予定

世界文化フォーラム公式ホームページURL:  
<https://wj-cf.org/>

※YouTubeからもご覧いただけます。

## 速報 「教主制度」廃止について

令和8年2月4日、立春祭 いづのめ教団  
杉原理事長(世界救世教管長)挨拶より、抜粋。

皆さんに、重要なお知らせを申し上げます。

平成三〇年からの教団浄化を経て、今後の教主に関わるあり方については、信徒の皆さんの声をお聞きし、包括法人世界救世教と各被包括法人が連携し、慎重に検討して決定していく旨を、包括法人の機関誌「大経綸」を通じてお伝えしてまいりました。

こうした方針のもと、いづのめ教団、東方之光、および明主様と聖地に直結する会において、皆さんのご意見を伺ったところ、大多数の方から「教主制は廃止してもいいのではないか」また、「教団に後のことはお任せいたします」というご意見をたくさん頂戴いたしました。

これらの信徒の皆さんの声を踏まえ、慎重に協議を重ねた結果、世界救世教責任役員会として、この度教主制を廃止する決定をいたしました。

私たちは、神界におられ、今も、そしてこれから先

も、主神から授けられた光の玉によって、天界から限りないみ光を注いでくださる明主様を救世主として仰ぎ、ご神業推進の道を歩ませていただく所存です。

ただし、この点で誤解のないよう申し上げたいのは、今回の教主制廃止が、二代様・三代様のご存在を否定するものではありません。

明主様が二代様、三代様を教主として教団の中心にお据えになり、二代様も、三代様も、明主様を求め信徒の先頭に立って教団を守られ、明主様を世にお出し申し上げる役割を担ってくださいました。

私たちは、そのご功績とご遺徳を、決して忘れるべきではありません。

教団は、これからも二代様、三代様のご教導を尊重しつつ、歩ませていただきます。

そして今、明主様が神界からお出しになられる光は、さらにその強さを日々増していると感じております。

私たちは、そのみ光を存分にいただきながら、明主様に倣って、神を顕し利他愛の培いをしてまいりましょう。

詳細は、大経綸22号(今月下旬発刊予定)に掲載

## 浄化を通して知った深いみ心

東大阪グループ MY

昨年の暮れから新年早々にいただきましたご守護について、ご報告をさせていただきます。

一二月二七日、いづのめ教団東大阪浄霊センターにて、お正月花の生け込みをさせていただきました。生け込みが終わり、昨年最後のセンターでの参拝を終え、その足で息子が買い物に連れて行ってくれました。その帰路での出来事です。午後五時を過ぎていましたので、家路を急いでいました。交差点で信号待ちをしていると、「ガチャン」というすごく大きな金属音と衝撃にびっくりしました。後方の車に追突されたのです。首が「カックン」となり、痛みが走りました。警察がすぐに来てくださり、相手の方と息子は車外で事情聴取、検証などで長時間の話になりました。私は、首の痛みに耐えながら自己浄霊をして、痛みはしばらくして治まりました。警察が「これからすぐに救急車で病院に」と言われましたが、「我が家のお正月の準備もしなければ、明日はお餅……」と思いを巡らし、救急車は断り、近所の病院を紹介していただきました。しかし、その日は土曜日の夜。交通事故ということで、なかなか受け入れていただけません。やっと、東朋八尾病院

から「すぐに来てください」との連絡があり、息子の運転で病院に行き、首頸椎などのレントゲンを何枚も撮りました。ムチ打ち症の症状はなく、異常なし。「もう一度、二九日に受診してください」とのことでした。

話が前後するのですが、先ほど警察の事情聴取が済むのを待っていた際、日中お花の生け込みでお世話になった、いづのめ教団の先生にお礼のメールをしました。すると、折り返し電話があり、私の声から何かを感じ取られたのか「どうしたの？」と尋ねられ、事故にあったこととお話することになり、東大阪浄霊センターのセンター長ご夫婦がすぐに病院へかけつけてくださいました。奥様はお花の先生で、この日は朝早くから私たちをセンターで受入れしてください、お疲れだった上に午後七時三〇分を過ぎ、一家団欒の夕食の時間帯にもかかわらず、飛んで来てくださったことを思うと感謝を表わす言葉が見つかりません。ご夫婦のお顔を見て、ありがたさで「ホッ」と安心すると同時に、申し訳ない気持ちでいっぱいになりました。あれだけの衝撃でしたのに車はほとんど無傷でした。親子ともども、「あの事故が反対の立場だったら」と思うと、ゾツとします。

年も明け「新しい心で」と思っていた矢先、一月一日、午後六時半過ぎ、明日の朝食に足りない物を思い出し、我が家から三〇〇メートルほどの所にあるスーパーへ買い物に行きました。あと三〇歩ほどで自宅に着くあたりで、道の端を歩いていました。そこへ前から来た自転車が、いきなりぶつ

かって来ました。私は、転倒して仰向けになり、左半身と、尾てい骨が痛くて、なかなか起きあがることができませんでした。相手の方は、おろおろするばかりで、何もしてくれません。通りすがりの方が、やっと起こしてくださいました。

隣が消防署ですので、すぐに救急隊が来てくださり、「ただちに救急車で病院に」と言われました。しかし、翌日(日曜日)が東大阪浄霊センターの新年祭で、今年最初のみ祭が控えていました。ご参拝、ご奉仕を許されたい気持ちが強く、「病院は休み明けに行きます」と言ってお断りをしました。消防隊員が、警察に連絡すると、すぐに警察官が来られました。相手の方が「全面的に自分の不注意でした」と、その状況を説明され、警察官からは「休み明けに必ず病院へ行ってください」との指示がございました。この日の夜は、興奮と痛みで眠れませんでした。朝方お手洗いに起きた時、身体全体に痛みはありませんで、歩くことができなかったので、「新年祭にご参拝ができる」と嬉しくなり、神様が、私を見捨てられなかったことに心底から感謝を致しました。息子も新年祭のご奉仕をいただいておりますので、車で参拝しました。全身に痛みはありませんが、歩くことができましたので、嬉しく、ありがたく、涙がこぼれ、何度か神前でお礼を申し上げたことでしょう。

三連休も明け、病院で診察を受け、「骨には異常が見られない」と言われ、「ホッ」としました。担当の医師から「本当に自転車にぶつけられて転倒されたのですか?」と言われました。私は、年齢が年齢ですので、何度も何度もレントゲン写真を

精査されて、「良かったですね。ですが、もう一度、二六日に受診してください」と言葉添えて、診断書を書いてくださいました。警察にその診断書を持ってきてくださいと言われていましたので、その足で枚岡警察署の方へ持って行きました。担当の方が「病院へ行ったあと、警察には一人で歩いて来たのですか!」とびつくりされ、帰りには「お家まで車を呼びましょうか?」と心配されましたが、ぼちぼちですが、歩いて帰りました。

昨年の初めから今年にかけて、大変大きなご守護をたくさんいただきました。しかし、その反面、いろいろな壁が立ちはだかり、悩み苦しみ、「なんで?なんで?この年になって」と自問自答を繰り返しました。浄化は神様の愛、信仰向上のチャンスだと分かってはいるのですが、なかなかお腹に落ちず……。思い切り大きな声で叫びたい」と、枕を濡らす日もありました。

「山より大きな猪は出ぬ」というたとえがあるように、「乗り越えることのできない浄化は、神様がお与えにはならない」と、やっと納得することができ、今はあの悩み苦しみのお蔭で自分が磨かれ、神様の深いみ心を知ることができました。

これからもいろいろなことがあると思います。「明主様だったらどうなさるのかなあ」と、み教えに照らし合わせ、参拝・浄霊・奉仕の基本業を忘れることなく前に進みたいと決意しております。

大神様、明主様ありがとうございます。感謝でいっぱいでございます。

## 感謝奉告

### 三聖地にご参拝を許されて

山口グループ N M

一二月七日に京都平安郷で執り行われる月次祭に、約一〇年ぶりに参拝させていただくこととなりました。春秋庵やお庭の紅葉を拝見できることを、とても楽しみにしておりました。

しかし、一〇月の中旬頃から左足の膝から下が痺れるようになり、検査を受けることになりました。結果、脊柱管狭窄症と告げられ、「老化のためだ」と言われました。「この度の参拝はどうなるか」と思い、「この参拝を、明主様に何としても許されますように」と、お祈りさせていただきました。

月次祭前日の六日から出発する予定でしたので、順調に行ができるようリハビリに励みました。多少違和感はあるものの無事出発が許され、グループ信徒のTさんとともに、平安郷へと向かわせていただき、夕方到着いたしました。職員の方に手厚く迎え入れていただき、その日は道中の疲れをゆっくり癒しながら床に就かせていただきました。

翌日、祭典受け入れのご奉仕もさせていただき、一時から執り行われる月次祭に、私たちは研修センターのご神前で、モニターを通して貴重なご参拝をさせていただくことができま

した。祭典後は、春秋庵にお祀りされている「大弥勒御尊像」にお参りさせていただき、お庭を拝観、お抹茶もいただきました。私たちとは違う場所で当日受け入れをされていた、引率くださった先生ともその後合流し、岡田茂吉記念館を拝観させていただきました。二泊三日、ゆっくりさせていただきましたが、初めて秋の聖地平安郷の景色、紅葉を楽しませていただきました。

明主様より、一昨年の秋に当会へのご縁をお許しいただき、昨年は箱根神仙郷、熱海瑞雲郷、京都平安郷の三聖地に身を置かせていただくことをお許しいただきました。この喜びは私だけの中にとどまらず、感謝奉告として聖地へお捧げさせていただきご利用、また、会誌「道」を親しくしている友人やご近所の方にお渡しさせていただきましたご利用が許され、信仰へのお導きをいただきました。

年明け初めの集会、三聖地の最新のようすを伺う中で、今年の聖地参拝への想いが言葉となって話している自分がありました。「私たちのグループも次の段階へとお導き賜りましたね」と、担当の先生はとても嬉しそうな顔をされました。

今年は、「この喜びがさらにどのように許されお導き賜れるのか」というワクワクする想いをもって、先生や信者さんたちと、集会で学び合いながら進ませていただきます。

明主様、お導きいただき心より感謝申し上げます。

富士見亭

富士見亭は、昭和十二年一月、明主様が東京都世田谷区上野毛の玉川郷において、当時のご神業の中心だった宝山荘の横に建設された建物です。

瓦葺平屋建ての純日本風建築で、十畳、六畳、二畳の三部屋と台所などからなり、西向きに建てられたこの家は、居ながらにして富士の霊峰を仰ぐことができることから、その名が付けられました。

明主様は、ご立教以後、新築された建物はこの富士見亭が最初であり、また、教団の基礎が作られた宝山荘時代、実に一〇年近くにわたって起居したのはこの富士見亭でした。当時、宝山荘には浄霊やご面会を求める人々が絶えず訪れ、この富士見亭では、特に「おひかり」やご神体のご揮毫、書画の制作、執筆などが行われました。また、この時代は宗教活動に対する官憲の監視や干渉が厳しく、明主様も度々出頭を命じられるなど、社会状況の影響を受ける中でのご神業でありました。昭和一五年には療術廃業を余儀なくされ、一時、活動が制限される時期もありました。

昭和一九年四月まで起居された富士見亭は、宝山荘時代のご神業を支え、黎明期の信徒に希望と力を与え続けました。昭和三〇年に解体後、設計図とともに保存され、昭和四九年一月二三日、箱根・神仙郷内に復元(本号表紙左側建物)、聖蹟に指定されました。



富士見亭でご揮毫に精励される明主様（昭和12年5月頃）



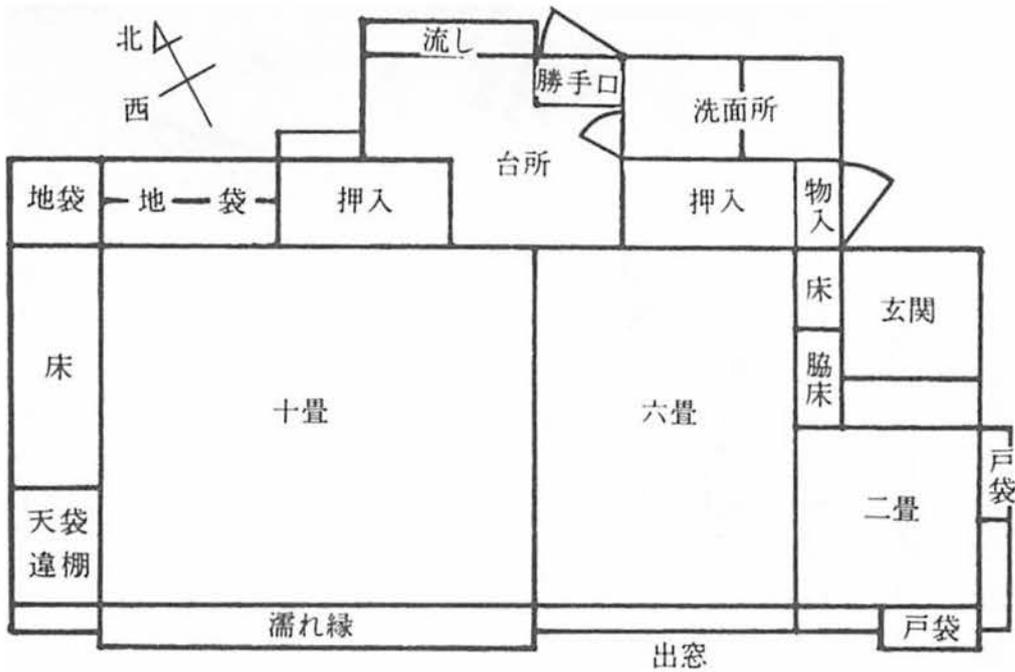
ご揮毫に使用された和室（復元）



扇形の板に花と葉をあしらった欄間



「富士見」と揮毫された扁額



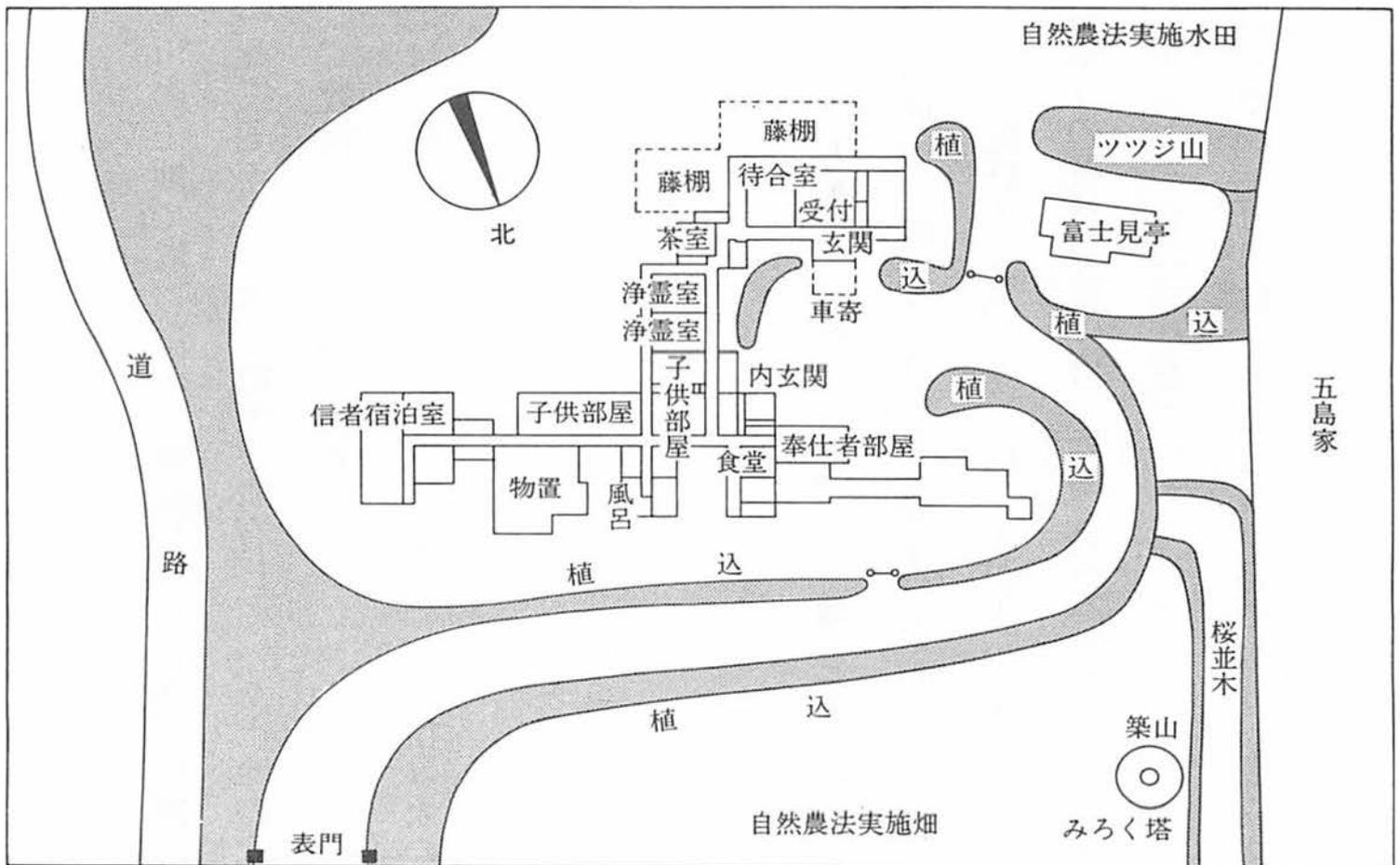
富士見亭間取り



玄関三和土(タタキ)の式台石



玉川郷時代の富士見亭



玉川郷俯瞰図



明主様へ日々のご守護に感謝を捧げ、新たなご神業参画への決意を奉告



冬の寒気に包まれる中、祭典はつつがなく執り行われた

## 明主様帰一のもと、新たな歩みへ

(箱根) 立春祭

2月4日、厳しい寒さの中、光明神殿において立春祭を斎行。中島MOA理事長は、本年を立教の原点に立ち返る一年とした経緯を解説し、今後の信仰の歩みについて言及した。昨年、世界救世教の教規・規則の変更が正式に認証され、明主様のご神格ならびに霊界からのご経綸が明確に示されたことを受け、新しい時代の扉が開かれ、超宗教としての幕開けを確信。また、箱根光明台に建設中の会館の名称を、包括役員会の決定により「光明会館」と命名することが発表された。明主様帰一のもと、人類救済のご用に一層邁進する誓いを立てた。



万物の気漲る立春に、ご神業邁進の祈りを捧げた



新たな節目を迎え、参列する信徒



タイ、ブラジルから合計58名の信徒が来聖

### (熱海) 立春祭

## 新文明創造へのご神意を体して

2月4日、救世会館にて立春祭が厳粛に執り行われた。杉原いづのめ教団理事長は、み教え「文明の創造 序文」の学びを通して、現在の文明は真文明へ至るための仮の文明であり、地上天国実現へ向かう転換期にあることを確認。立春は霊界の夜昼転換が進み、善悪の立て分けが一層明確となる節目であり、一人ひとりが神様中心へ想念を切り替え、創造の側に立つ決断が求められていると取り次いだ。挨拶の中では、教主制廃止についても言及(P10速報)があり、明主様帰一のもとご神業に邁進する決意が示された。

# 紫微宮祭(箱根)／教祖祭(熱海)／ご墓前祭

二月一〇日、東方之光では光明神殿にて紫微宮祭、いづのめ教団では救世会館にて教祖祭が執り行われた。神界からご経綸をお進めになられる明主様のみ心を拝し、これまでの歩みを省み、明主様ご昇天後に進展してきたご神業を改めて確認し、さらに、み教えの核心に立ち返り、明主様帰一のもと、ご神業のさらなる推進に邁進していく決意が捧げられた。



先達のみ霊とともにご神業専心、明主様帰一の信仰を誓う



救世主明主様に感謝を捧げ、ご神業に邁進する決意を捧げた



紫微宮祭・教祖祭を終え、奥津城にてご墓前祭が執り行われた

## 感謝奉告

### 三聖地参拝を経て想念が転換

山ログループ T K

一二月七日に京都平安郷において執り行われた月次祭に、グループ担当の先生と信徒のNさんとともに参拝させて頂きました。私は二〇年ぶりに平安郷での参拝のお許しをいただきました。

前日の夕方、研修センターに着くと、いづのめ教団の職員の方々が温かく迎えてくださいました。研修センターご神前での夕拝の時に、明主様にこの度のご参拝をお許しをいただきましたことに、感謝を申し上げます。

月次祭当日の朝、ご参拝される皆さまをお迎えするご奉仕をさせていただきます、その後、Nさんと研修センターご神前でご参拝をさせていただきました。

前日に続いて、参拝をお許しいただきましたことに感謝申し上げ、昨年、「明主様と聖地に直結する会」に入会させていただき、一年のうちに三聖地にお参りを許されたことに、さらに感謝を申し上げます。

月次祭での、明主様と先達のお話には、とても感動させられました。そして、想念の大切さを学ばせていただきました。月次祭終了後、午後から「大弥勒御尊像」がご

奉斎される春秋庵にご参拝し、お庭を拝観させていただきました。お抹茶の接待も受け、席でいただきましたながら広沢の池周辺のお庭の美しさに感激し、とても幸せな気持ちにならせていただきました。岡田茂吉記念館では、係の方が丁寧に説明してくださいました。記念館の外の紅葉のすばらしさにも感激しました。

この度、二〇年ぶりに二泊三日で、ゆっくり平安郷に身を置かせていただきましたことに感無量でございます。いづのめ教団の職員の方々に大変お世話になりました。ありがとうございます。そして、この一年、三聖地参拝を受け入れてくださいました東方之光、いづのめ教団の職員と信徒の皆さま、その手配をしてくださった当会本部の先生、職員の方々に、ご案内くださった担当の先生、ご一緒に参拝することができた信徒の皆さまに感謝申し上げます。

明主様より、聖地への参拝をお許しただく度に、感動と喜びを賜り、親族や友人にこのことを「どうお伝えしていけば良いのだろうか」という思いへ、明主様は今、私をお導き始めてくださっています。

そんな思いをさらに深くお導きくださるよう、集会では担当の先生から、最新の聖地のようすや活動を、祭典のご挨拶や信徒のご奉告を通してお話いただき、また当会機関誌「道」に掲載された名古屋、四国、九州の信者さんの感謝奉告を、その信者さんをお世話されている

担当の先生から、具体的な内容を交えてお話をお聞きしました。

そのようなお導きもあって、私も集会へ移動中の車中で、その想いを話す機会や具体的な営みをお聞きするチャンスをいただいたり、集会でもそのような場面をお許しいただき、「いただく世界」から「あたえる世界」へ一歩一歩とお導きいただいています。山口に住む兄には初めて明主様の信仰を伝える機会を許されました。友人にご浄霊をさせていただく機会も現れ始めています。

今後は、賜った喜び、感動に報恩の心で、明主様のご用にお仕えさせていただきます。

大神様、明主様ありがとうございます。

## 感謝奉告

### 温かな想念により導かれた世界

鳴門グループ

MA

いただいたご守護を報告させていただきます。

昨年一二月号「道」に掲載された、名古屋栄グループのFさんの感謝奉告に、「自分の中に湧いてくる思いを『すべて明主様がなさっていらっしやる。これは明主様のみ心の現れなのです』と定める努力を始めました」

とありました。とても分かりやすく、何度も何度も読ませていただきながら毎日を過ごしていました。

今、私は、派遣会社から紹介された会社に勤めています。仕事の内容は、家具の組み立てです。仕事は体力的にも大変で、家具の種類も多く、一つひとつ組み立て方が違い、なかなか仕事を覚えることができません。家具の組み立て以外の部署の手伝いもするので、混乱して訳が分からなくなったりします。毎日リーダーさんから怒られ、若い社員さんからも叱られ、本当に身も心も疲れ果ててしまいました。だから、「仕事を辞めたい、辞めたい」と、毎日、ズーツと思っていました。

いつも和田先生は「何か分からないことがあれば、まず明主様にお伺いしてみてください。必ずお応えくださいますよ」と導いてくださり、私は「明主様、なぜ今の仕事が辞められないのですか？教えてください」と何度も何度も心の中でお伺いしました。

そんな時、仕事中、可動式の棚の付いた台車を移動させていると、台車がバランスを崩してしまって、棚に乗っていた製品を全部ひっくり返してしまいました。あまりのショックに、「もうこの仕事は無理だ」と心が折れてしまいました。仕事が終わってから派遣会社の担当の方に、「今の仕事を辞めさせてください」と頼みましたが聞いていただけませんでした。

毎日、み教え拝読をさせていただいているのですが、

その日の拝読は『信仰の醍醐味』でした。「何事も人事を尽くして後は神仏にお任せする」「どうしても判断がつかぬ難問題に逢着したとき、神様にお任せするということにして、後は時を待つのである」と書いてありました。私は、「はっ」としました。「すべて明主様のお心の現れ」と心を定めていなかったこと、「仕事を辞めたい」と自分の思いにしてしまったこと、明主様にお任せしていないこと、何度もFさんの感謝奉告を読ませていただいていたのに、分かったつもりになっていました。頭だけで理解していたことに気付かせていただきました。

後日、Oさん宅のご神前で、明主様にお詫びし、「明主様にお任せし『温かな想念』を实践させていただきます」とお伝えさせていただきました。

それから、何故だかよく分かりませんが、毎日が楽しく、仕事へ行くのが嬉しく思えるようになりました。それ以外にも、リーダーさんが優しく丁寧に仕事を教えてくれるようになりました。

また、帰りの車の中では、きょうの仕事の中での出来事を思い出しながら「ワツハツハツハツ」と一人笑いをしてながら運転をしている自分が付きました。「ああ、これ（自然に笑えたこと）が、明主様から流れてくる「光と愛」なのだ」と思いました。

そして、「温かな想念」を实践することで、自然と明主

様に導かれる世界があることを実感させていただきました。これは、明主様がおっしゃっている『想念次第』ということであり、「温かな想念」が魂を主体とした営み——「魂活」への入口なのだと思います。

まだまだ大変なことがたくさんありますが、前向きに仕事をして行きたいと思えます。明主様が、そう思えるようにしてくださいました。

明主様ありがとうございました。



広沢池から見た夕焼けと飛行機雲

## 幾度も救われた命と感謝の日々

淡路グループ KA

今日までのご守護と、この度いただいたご守護を報告させていただきます。

私は信仰二世です。三歳の時疫痢にかかりました。近隣で同じ病に三人がかかっていました。その中でも私が一番重症で、医者に見放されてしまい、両親は何とか助けたい一心で救世教にすがりました。当時の教会の支部長先生に「子供さんを助けなければ布教しなさい」と言われ、両親は「布教しお導きさせていただこう」と誓ったそうです。

そして、支部長先生は、明主様に私のご守護願いの電報を打ってくださいました。その後、薬ではなく、ご浄霊一本で治療に専念し、無事にご守護をいただき、元気になることができました。以後、薬とは一切縁がない生活を送って来ました。

そして、家庭をもち、幸せな日々を送る中、自動車事故を起こしてしまいました。運転中、目の前に大型トラックが現れ、気が付けば車は大破して廃車状態でしたが、私は無事でした。これまた、ご守護をいただきました。感謝し

かありませんでした。

五年前、主人を癌で亡くし、一人暮らしとなりました。主人の五年祭のことを思っていましたある日、夜中にトイレに起きることが辛くて漢方薬を服用してしまいました。今まで一切薬を服用してこなかった私の身体は、漢方薬を拒絶するかのようになり、アレルギー反応を起こして、全身が痒くなり、かいているうちに、全身浮腫で息も苦しく、歩くことも困難な状態になってしまいました。

その中、先生方やグループの皆さま方にご祈願とご浄霊に取り組んでいただいておりますが、入院することになりました。全身の水を抜く治療に入ると、三日間意識がない状態に陥りました。私は意識のない中、夢か現か、その時、両親が出て来て「しっかりせよ」と励ましてくれました。その両親の背後に明主様がいらっしやうて、恐れ多くも私にご浄霊をしてくださり、その後、意識を取り戻すことができました。意識が戻ったことで、病気の原因についての検査に入りました。皮膚、腎臓、骨、血の検査と多岐にわたって検査をしましたが、「調べたが何も問題はない」とのことでした。

大神様、明主様と、先生方とグループの皆さま方のご祈願のお蔭と感謝しております。

これからも日々、大神様、明主様中心の生活を送らせていただきたいと思います。ありがとうございます。

本当にありがとうございます。

## 救人一路 「書画による救い」

右の『日記』の中にも見られるように、このころは信者に下付する観音像の描画ばかりでなく、教祖の胸には、やがて新しい宗教の創成（そうせい）に備えてか、本部の神体とするため、大作の観音像にも絵筆を執っていたことがわかる。巻頭の口絵カラー写真に掲載した大弥勒像はその当時揮毫したものである。このころ教祖は後の「自観」という落款（らくかん）（書画に筆者が署名、または雅号の印をおすこと）とは異なり、「暉月」を使用している。暉月とは日月を意味し、観音の働きを象徴する雅号であるが、昭和九年（一九三四年）に大本から離れるまでこの号を使っていた。また、昭和六年（一九三一年）からは「自観」の号も用いるようになった。そのほか、神体として描く観音像ばかりでなく、お守りとして描く観音像もあった。

教祖の描いた観音像には、いろいろな不思議な逸話が報告されている。画像から光が放射するのを見た人はたくさんいるが、そのほか観音像が笑ったり、目をまたいたり、絵から抜け出して数メートル歩いたりするのを拝した人も

あった。また、二階に奉齋（ほうさい）した画像から発する光明は階下まで漲り、美しい五色の雲がたなびいて、観音像をお祀りした家庭が天国のようになることをはつきり見たという奇蹟もよくあったという。また、埼玉県大宮支部では、呉服屋の娘・静（しず）が産後のノイローゼで苦しんでいたが、観音像を奉齋すると三日で全治した。神前に額づくつと、床の間と観音像が絵から抜けてこの病人のそばへ寄って、いろいろと教示をし、その導きによって初めて本心を取り戻すことができたのであった。

教祖の観音像は顔の部分ができあがると、そこが際立って白く変わることがあった。大森・松風荘時代、教祖宅へ出入りの表具屋が自宅で仕事をしていた時、たずねてきた同業者が観音像に見入って、「このお顔には胡粉（ごふん）が塗ってあるのだろ。」と言いはった。そして、指でこすってみて不思議がったという。奇蹟はこればかりではなかった。

昭和六年（一九三一年）八月一二日の『日記』に、  
自動車の守りの観音十一体今宵初めて描きけるかな

と記録されているが、当時、東京市電気局の自動車課から大量の自動車のお守りの注文が教祖にあった。乗合自動車がよくやく大衆のものになってきた時代のこと、交通事故を防ぐ意味から教祖はお守りの注文を快く引き受けたのである。さっそく出入りの職人に命じ、縦長の薄い板金の中央を丸

く打ち抜き、そこへ、和紙に描いた観音像を貼って自動車の  
お守りを作製したのである。

九月三〇日の『日記』に、

市電より自動車守りの注文に徹夜をなして謹製なしけり

また一〇月二日には、

自動車のお守市電へ三十体今日納めしむる事となりけり

とある。

教祖はできあがった三〇体のお守りを、新宿にあった営業  
所に届けさせ、バスの運転台の前方に一体ずつ掛けてもらっ  
て、事故率を見届けることとした。その衝にあたっていた清  
水清太郎によれば、お守りを掛けてから事故の発生はまった  
く無くなったという自動車課からの話があったと伝えられて  
いる。

その後にも申し込みがあったのであろう。昭和七年（一九  
三二年）の五月一九日の『日記』にも、つぎの歌が記されて  
いる。

市電バスに附くべき事故よけ遅くまで

四五人かゝりて作りけるかな

すでに述べたようにこのころ教祖は人々の願うままに、  
おひねりを作つて与えていた。

昭和六年（一九三一年）五月の『日記』には、

真柄、松久、篠崎相手に観音を三体描きおひねり作りぬ

とある。そのころ大本においてもまたおひねりが作られてい  
たが、教祖はこれとは別にみずからおひねりの揮毫をしたの  
である。初めは観音像を描いたが、後には平仮名で「ひかり」、  
最後には漢字で「光」と書くようになった。このおひねりに  
よつて、病気が癒され、大きなお蔭を受ける信者が多く、ぜ  
ひとも下付してほしいという要請が教祖の所へきていたので  
ある。

このように教祖は、立教前数年にして、すでに浄霊ととも  
に、書画による救いを展開していったのであった。

### 神機到来 「内外の嵐」

昭和四年（一九二九年）一〇月、ニューヨーク・ウォー  
ル街で株の大暴落が起こった。これが口火となつて勃発し  
たパニック（金融恐慌）は、数年にわたつて、世界中の国々  
を巻き込み、史上最大の大恐慌となつたのである。アメリ  
カでは工場、商店の倒産が相次ぎ、一九三三年には失業者  
一五〇〇万、農民の収入は三分の一に落ち込んだという。

ドイツにおいても経済は極度に悪化し、一般民衆の生活は大変厳しいものであった。そして一九三二年には、ついに第一次世界大戦に伴う賠償の支払いさえも打ち切りになった。この混乱に乗じて台頭してきたのがヒットラーの率いるナチスで、一九三三年、彼は首相となって権力の座につき、やがてヨーロッパ全土に風雲を巻き起こすことになるのである。

さて日本は、昭和の初めから不景気が続いていた。苦勞して大学を卒業しても、待っているのは失業だけという、当時の学生の嘆きを描いた映画「大学は出たけれど」が作られたのも、昭和四年（一九二九年）のことであった。そこへこの大恐慌の嵐が吹き荒れたのである。未曾有の経済危機のため、昭和五年（一九三〇年）、そのころの輸出の花形であった生糸は、真つ先に大打撃を受けた。これがほかの物価の下落に拍車をかけて、この年における失業者は三〇〇万人に達した。政府は、この大恐慌に全力を尽くして対処し、とくに、貿易振興のため中国との協調を狙い、また、軍備を縮小して軍事費の削減を計ったりした。しかし、これらの施策は軍部や右翼の反発をあまり、政治家に対する不信を募らせ、武力による政治改革を志向させることになったのである。

昭和五年（一九三〇年）十一月、時の首相・浜口雄幸は東京駅頭において、右翼の青年に襲われて重傷を負った。このころは満州問題を中心に、一部軍人らの暗躍が激しく、その画策によって、翌六年（一九三一年）九月に満州事変、さら

に七年（一九三二年）一月には上海事変が起こっている。そして、この年政府要人や実業界の大立者の暗殺が起こり、ついに五月一日には軍人の一団によって犬養毅首相が射殺された。これが世に言う五・一五事件である。

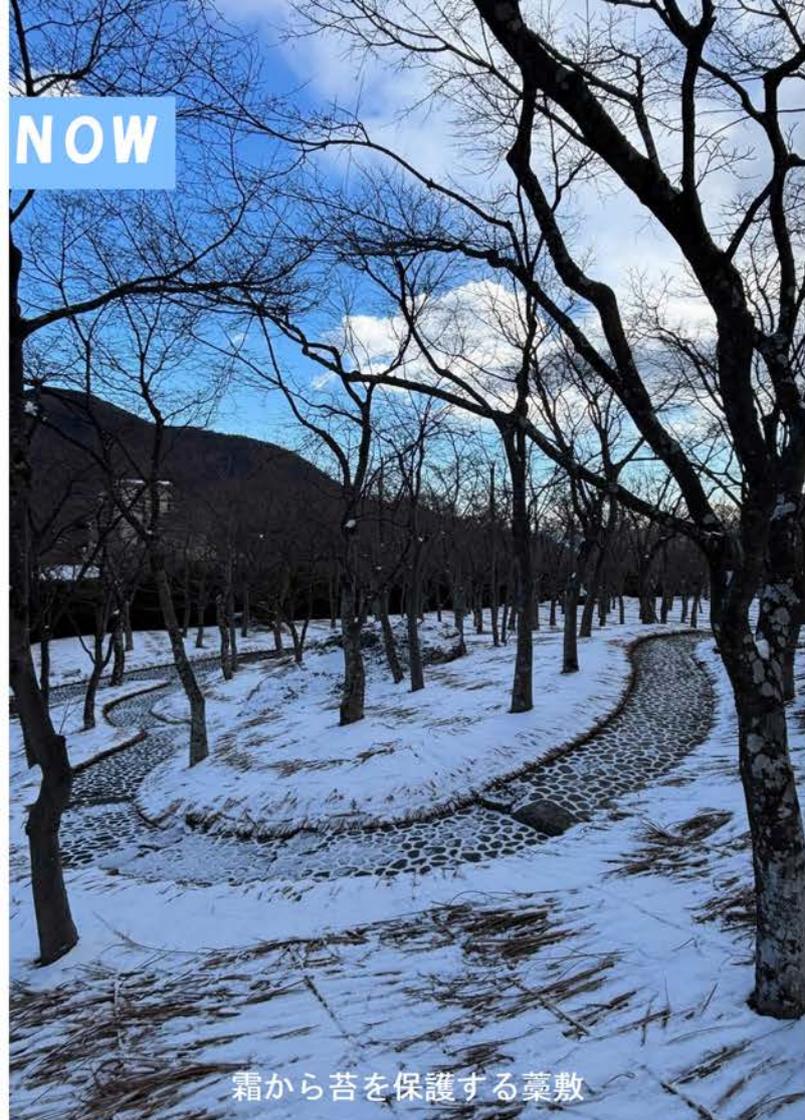
この日、教祖は千葉の越河宅から帰京してこの事件を知り、つぎのような歌を記している。

犬養氏負傷や其他忌はしき事件突発驚きにける

昭和七年（一九三二年）三月に満州国は建国されたが、その承認をめぐって日本は列強諸国の猛反対を受け、ついに、翌年三月、国際連盟を脱退し、「世界の孤児」となってしまう。このころからしだいに民主的思想は押えられ、自由主義的色彩のものは姿を消し、「非常時」とか、「挙国一致」という言葉によってしだいに軍国主義の時代へと移っていく。やがて、昭和十一年（一九三六年）二月、陸軍の一部軍人が起こしたクーデター二・二六事件が発生し、日本は第二次世界大戦への道突き進むことになるのである。

次号に続く『東方之光』（上巻）より

NOW



霜から苔を保護する藁敷

神仙郷



白銀に覆われた石楽園



雪景に佇む観山亭



紅梅と白亜の殿堂



紅白咲き分ける品種「思いのまま」



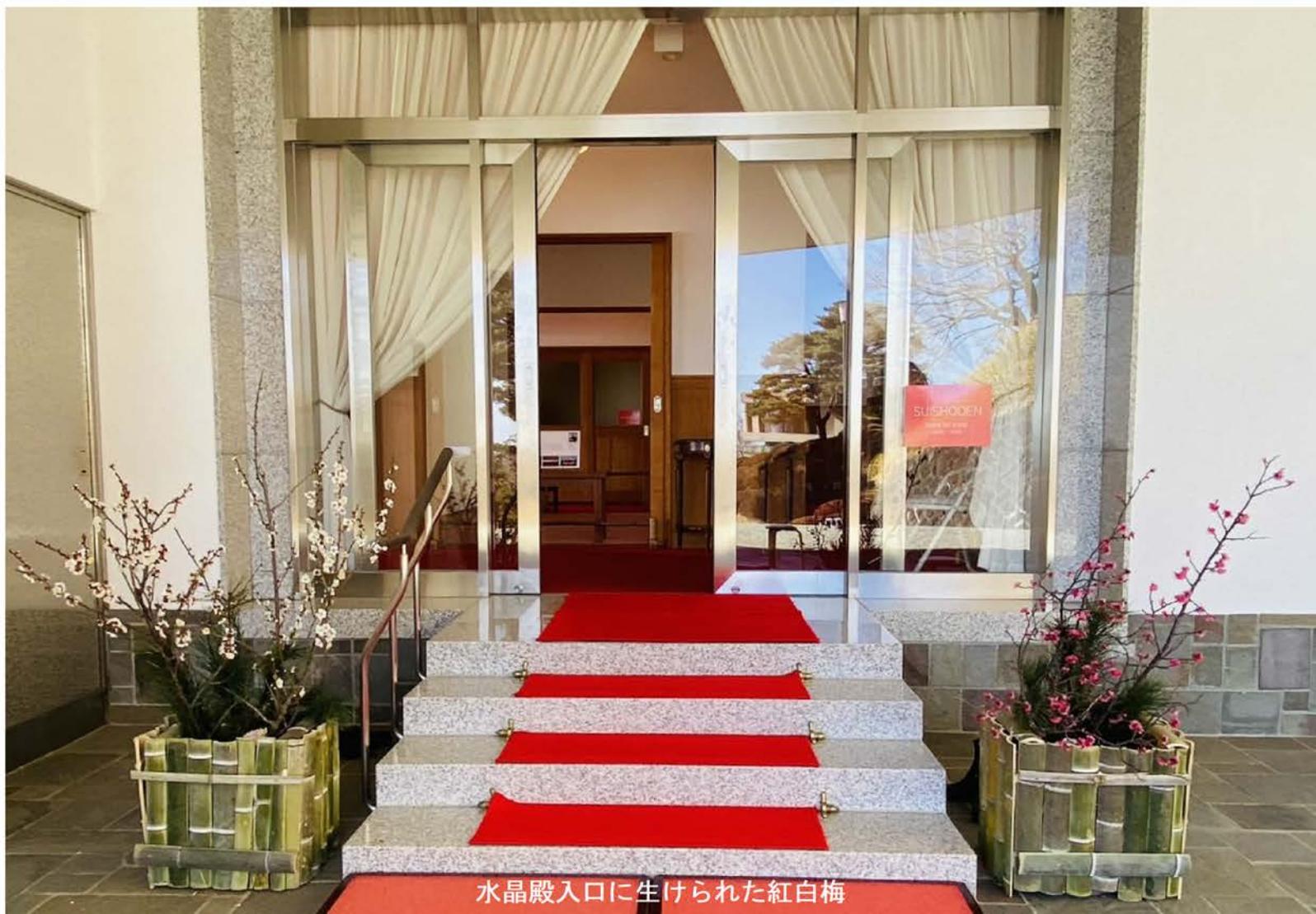
熱海桜とメシロ



樹齢約300年の枝垂れ梅の奥にミロク塔



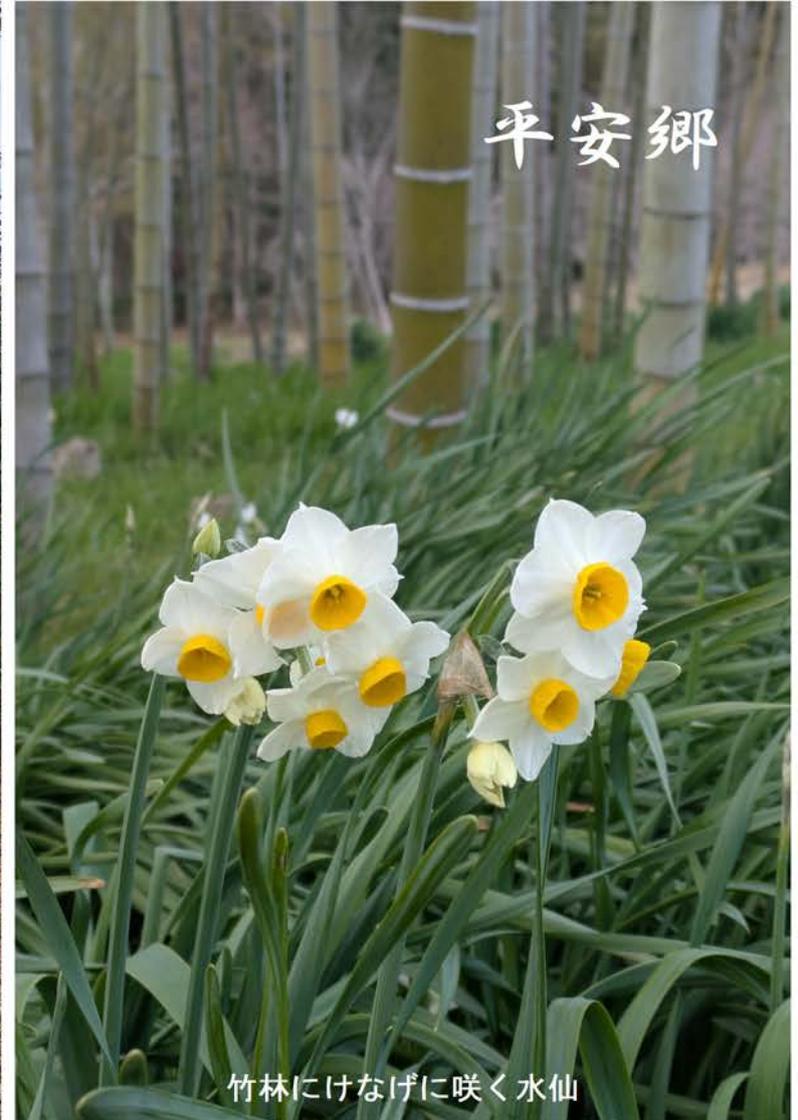
水晶殿から望む相模湾



水晶殿入口に生けられた紅白梅



万両と楠風荘

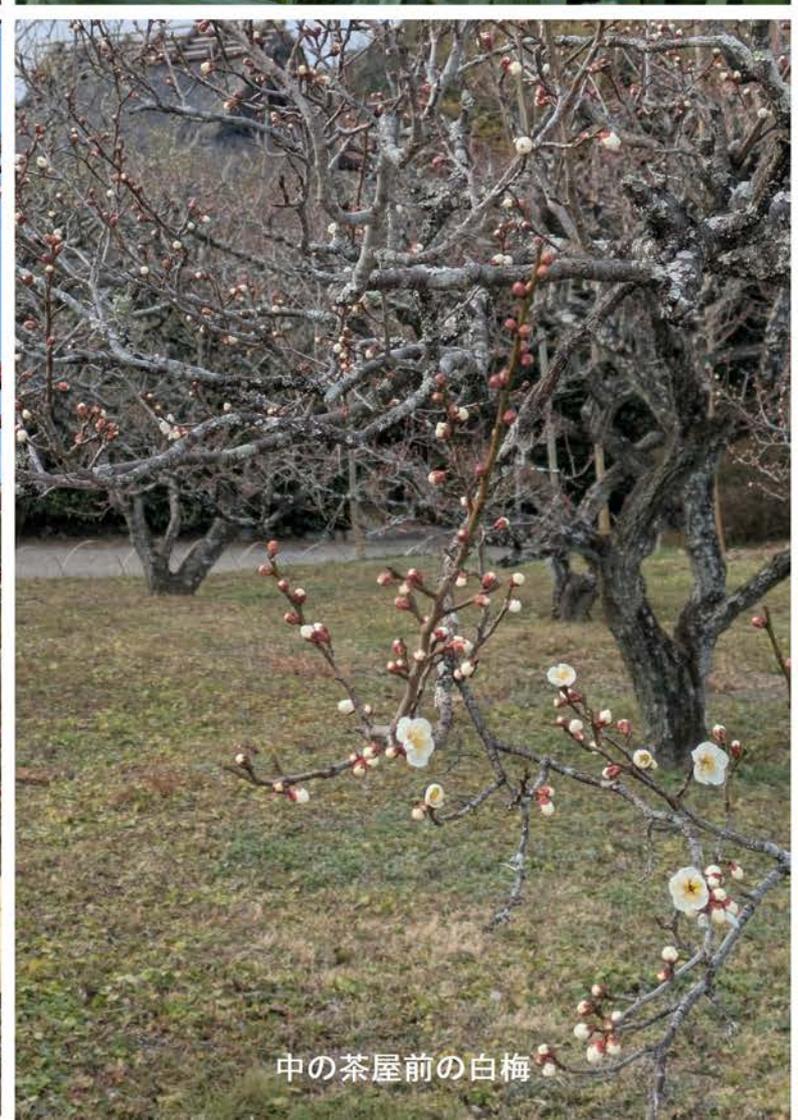


# 平安郷

竹林にけなげに咲く水仙



広庭に佇む紅梅



中の茶屋前の白梅

私たちの役割（2）

（株）瑞雲 代表取締役 堀口照正

現在、日本の社会において自然食は、健康のための安心・安全な食べ物として捉えられている方が多いと思います。具体的には、食品を長持ちさせるための防腐剤や、味や見た目を調えるための化学合成添加物が使われていない食品、農薬や化学肥料を使用しない野菜やお米、抗生物質を使わずに育てられた肉や魚などが挙げられます。これらを明主様のみ教えに照らし合わせると、「異物は消化されず体内に残り、病原となる」という教えに通じます。食物と定められたもの以外の異物は、人体では完全に処理できないようになっており、体内に残存した異物が病原になるとお示しくださっています。それは、医療で使われる薬だけではなく、食品に使われる防腐剤や、農産物に用いられる化学肥料や農薬なども含まれ、長い年月をかけて人体に薬毒として蓄積されると仰っています。このような考え方は、現在では一部の医師や社会に影響のある方々によって理解され、発信されるようになってきました。それらのメッセージでは、私たち日本で暮らす人々に適した食べ方を訴え、がんや糖尿病といった

生活習慣病、皮膚炎などのアレルギー、さらにはうつ病や引きこもりといった精神疾患の要因について、人体科学を前提に分かりやすく説かれるようになりました。

明主様が唱えられた食事観は、今や私たち信徒だけのものではなく、民度が高まり成熟した現在の日本社会において、広く受けとめられつつあります。

そこでさらに明主様のみ教えに求めていくと、まだ世の中が十分に理解しきれしていない食事観がいくつか存在することに気付きます。これら真理とも言うべき概念を発信していく役目が、私たちにはあるように思います。

明主様の食事観の根幹の一つには、「食べ物」の定義が明確に示されています。それは、「食べ物とは、神様が人間を造ると同時に用意された、人間が生きるために必要なものであり、私たちが美味しいと感じ、その時に欲するものこそが、健康に生きるための食べ物である」というものです。この概念は、神様の定義、そして人間の存在意義を根幹としています。

すなわち、「大自然の動きこそが真理そのものであり、その具現者が神であり、宇宙意思であり、大自然そのものが神である。神が地上に天国を造るために、人間を神の代行者として造られた」という世界観です。こうして見ていくと、神様が存在するということが、そしてその神様とは宇宙意思であり、大自然そのものであり、真理そのものであることが理解できます。また、その神の意図

に沿って生きることが人間の役割であり、人間の使命であることも分かります。

「人間はなぜ生まれたのか。私は何のために生きているのか。私の意思や意識とは何なのか」といった人生観を考える上でも、非常に大切なみ教えです。

私たちはこの世界観を信じて入信し、明主様の信徒となつていますが、現在の日本社会において食べ物の話をする際に、神の存在を前提として語ることは、伝える相手の価値観に配慮し、時と場所をしっかりと考え、慎重である必要があります。例えば、「大自然の動き」という自然観を、農業や食事を通して発信することは十分に可能です。自然農法や自然食が救いの三本柱の一つであることは、非常に具体的で分かりやすい活動だと思えます。

世の中にまだ十分伝わっていない明主様の食事観には、この他にも「人間は栄養の製造工場である」という概念があります。これについても、今後医学や科学の分野で徐々に解明されていくものと思われれます。近年注目されている腸の機能に関する研究などでは、栄養の概念そのものが変わりつつあります。食べ物と健康の関係において最も大切なのは、私たち人間の体の役割と機能ですが、現代医学ではその解明はまだ一部にとどまっています。

さらに、「霊気そのものに栄養がある」という概念もあります。私たちは霊気という目に見えないエネルギーを、明主様の信仰を前提として理解することができますが、

一般の方々にとっては理解が難しい側面もあるかもしれませんが。しかし近代物理学の量子力学や宇宙科学の分野では、目に見えない素粒子の研究が進み、宗教・医療・科学それぞれの概念を統合し、止揚しながら研究が進められ始めています。

これから何回かに分けて、明主様の食事観の中から、今後の日本社会に向けて発信していく必要のある学びを、皆さまとともに深めていきたいと思えます。

#### 【参考み教え】

「毒素の解剖」 結核信仰療法 昭和27年12月1日

「事故の原因」 栄光 165号 昭和27年7月16日

「惟神医術」明日の医術 第二編 昭和18年10月5日

「世界救世教教義」救世 53号 昭和25年3月11日



平安郷の侘助(わびすけ)椿

## 【お知らせ】

### ■ 聖地祭典前後のご奉仕者募集

聖地に於ける祭典では、その前後に、信徒によるご奉仕を募集しています。時間は、参加者のご都合に合わせます。事務局までお問い合わせください。

### ■ MOA美術館アートボランティア募集

お客様サポート、館内安全業務、他。18歳以上70歳未満。健康で長期ご奉仕のできる方。(一日型、半日型)ご都合の良い日にご奉仕いただけます。令和八年一月一日からの一年登録です。

### ■ 機関誌「道」ホームページ掲載

世界救世教ホームページに、当会機関誌「道」を掲載しています。

検索方法 .. 世界救世教 <https://sekaikyuseikyou.or.jp>

### ■ 祖霊祭祀

当会では、東方之光の箱根紫微宮、いづのめ教団の熱海救世神殿祖霊舎に、お申込みいただいたすべての祖霊さまをお祀りしています。(ご不明な点があればお尋ねください。)

### ■ 教費・ご献金・慰霊祭・その他のお届け、各種申し込み

毎月20日が、受付月切となります。(厳守)

個人、またはグループでまとめてお申込みいただいても結構です。個人の場合は、送金の明細(教費・各種献金・お玉串・年祭慰

霊祭・各種申込み)を、お知らせください。

メールやファックス、または事務局への電話申込みも承ります。

### ■ 緊急ご祈願

緊急事態、またはご浄化などに際し、聖地のご神前にてご祈願をさせていただきます。当会事務局までご連絡ください。

### ■ ご相談、入金、ご下付、「おひかり」のお浄め、その他

信仰活動上のご相談は、事務局までご連絡ください。

### ■ 送金口座

① ゆうちょ銀行 ↓ ゆうちょ銀行

(記号) 12320 (番号) 5891131 セイチチヨツケツノカイ

② 他銀行 ↓ ゆうちょ銀行

(店名) 二三八 (店番) 238

(普通) 口座番号5891133 セイチチヨツケツノカイ

③ スルガ銀行 熱海駅支店601

(普通) 口座 3618722

世界救世教 明主様と聖地に直結する会 代表 西村正資

※感謝献金・教費・玉串料・慰霊祭の申込みなど、送金につきましては、ご連絡いただければ、ご案内させていただきます。



節分 ひいらぎ

世界救世教 明主様と聖地に直結する会  
(聖地直結の会)

〒413-0006

熱海市桃山町26-1 救世会館 1階

電話 0557 85 8060

FAX 0557 85 8185

seichicyokketsunokai@outlook.jp



No. 93 2026年2月15日発行

世界救世教 明主様と聖地に直結する会

